

平成 29 年度
広島市教育センター

段ボール遊びにおける幼児の思考力の芽生えを育む援助の工夫

—「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を基に環境構成をすることを通して—

広島市立矢賀幼稚園教諭 岩 井 美 江

研究の要約

本研究は、幼児の思考力の芽生えを育むために、幼児の思考力の芽生えを捉える視点を整理し、発達の姿を踏まえた援助や環境構成について探っていくことを目的としたものである。幼児が遊びの中で、考えたり、試したり、工夫したりするなどの姿が「思考力の芽生え」の姿であり、幼児期に育みたい力の一つである。そこで、幼児の思考力の芽生えの姿と、幼児の思考力の芽生えを育む環境構成について整理し、「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を作成し、これを基に段ボール遊びにおいて、実践、分析、考察を行った。

その結果、教師は、「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を活用することで、幼児の思考力の芽生えを育むための環境構成の視点が定まり、幼児の思考力の芽生えの姿に応じた援助を行うことができた。

キーワード：思考力の芽生え、環境構成、援助、

「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」

I 問題の所在

『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』では、「学びの過程の重要性を踏まえ、具体的な活動の中で、比べる、関連付ける、総合するといった、思考の過程を示すなど、思考力の芽生えを育むようにする」¹⁾とし、幼児教育における、思考力の芽生えを育むことの重要性について示している。

また、『幼稚園教育要領』では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中の一つとして「思考力の芽生え」を示しており、このことは、幼児期から児童期につなげていく「学び」の基礎となる力に直接つながるものであると考える。

所属園において幼児は、自ら興味や関心をもち、遊びに関わることはできる。しかし、遊び方は教師に指示を求めたり、確認したりするなど教師主体の遊びが多く自分たちで遊びを考えたり、工夫したりする姿はこれまであまり見られなかった。

自身は、幼児の年齢や実態に合わせた環境を構成し、環境を用意してきたが、幼児が遊びを工夫したり、発展させたりするための環境(教師の援助・場の設定・時間)が十分ではなかった。つまり、援助の際に自身が環境構成の視点等を整理しきれていないこと、幼児の思考力の芽生えの見取りが十分に整理しきれていないこと等により、自分たちで遊びを考えたり、工夫したりする幼児の姿が見られなかったのではないかと考える。

そこで、本研究では、幼児の思考力の芽生えを育むために、幼児の思考力の芽生えの姿と、幼児の思考力の芽生えを育むための環境構成の視点について整理し、教師の援助の工夫について研究することとした。

II 研究の目的

幼児の思考力の芽生えを育むために、幼児の思考力の芽生えの姿と、環境構成の視点を整理した「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を作成し、環境構成及び援助の工夫を探ることを目的とする。

III 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 研究仮説の設定及び検証の視点と方法
- 3 検証保育の計画と実施
- 4 保育実践の分析と考察

IV 研究の内容

1 研究主題に関する基礎的研究

(1) 思考力の芽生えについて

幼児の思考力の芽生えについて、『幼稚園教育要領』では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中で、幼稚園修了時の具体的な姿として「身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。」²⁾と示している。

また、幼児の思考力の芽生えの発達過程について、『幼児期から児童期への教育』では、「『なぜだろう』と思い対象とかかわる、いろいろに試す、確かめる、納得して自分の世界に取り入れるという行為の繰り返しの中で、幼児の世界は広がり、思考力が育つ」³⁾と述べている。そ

の際、幼児は遊びの中で、『あれ？へえー』と諸感覚を通して新たなことに気付き疑問をもち、『こんなふうにしてみたい、あんなふうになってみたい』という思いをもつ。そして、『〇〇かもしれない』『〇〇してみよう』とその幼児なりに考え、試しにかかわることで、『やっぱりそうだった、〇〇だから〇〇なんだ』と分かり、満足感を得る。またうまくできない経験から、新たな思いが生まれ『もっとこうしてみよう』と更に工夫し、自分の予想や発想を実現できるように表現していく。(中略)物事への気付きや思いをもち、そこから考え、試し、工夫し様々な形で表現していく過程は、小学校以降の学習の芽生え、すなわち自ら課題を探究し解決していくことへの芽生えということができる。」⁴⁾と述べており、幼児は遊びを通して、様々なものに出会い、気付き、考え、試す等、思考力の芽生えの姿が育まれていくと考える。

このことから、幼児の思考力の芽生えの姿について次のように整理した。

- ・ 出会い・気付き (あれ？なあに？)
- ・ 疑問・好奇心 (何かな？)
- ・ 意欲 (こんなふうにしたいな)
- ・ 考え・試す (きっとこうなるだろう)
- ・ 確認 (これでいいのかな？)
- ・ 挫折の克服 (できなかつた。もっとこうしてみよう)
- ・ 納得 (やっぱりそうだった！〇〇だから◆◆なんだ)
- ・ 満足感 (わかった・できた)

本研究における思考力の芽生えの姿とは、これら八つの姿とする。

(2) 環境構成について

幼稚園教育は、「環境を通して行う教育」が基本である。環境構成について、『幼稚園教育要領』(平成20年)では、「教師は、幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、教師は、幼児と人やものとのかかわりが重要であることを踏まえ、物的・空間的環境を構成しなければならない」⁵⁾と示

している。このことを実践し、幼児が興味や関心をもって、環境と関わり、気付き、考え、試す等、思考力の芽生えを育むためには、環境構成の視点をより明確にしておく必要があると考えた。

岡上(2017)は、環境構成の視点について次のように述べている。物の特性や扱いやすさ、配置、提示のタイミングなど、「物的環境」に関すること。また、場所の安全性や慣れ親しんでいること、幼児が自ら遊び場を自由に選択できること、遊びの動線を考え場の配置や思う存分遊ぶことができる時間の確保など、「空間・場所・時間」に関すること。教師の援助や友達との関わりなど、「人的環境」に関すること。

これらのことから、環境を構成する際には、大きく「物的環境」、「空間」、「人的環境」の三つの環境に分けることができると考えた。さらに、「空間」には「場所・時間」の視点も必要だと考え、各項目の詳細を表1、表2、表3のように整理した。

表1 環境構成の視点(物的環境)

物的環境					
素材・用具					
1	2	3	4	5	6
安全な物	分かりやすく分類し配置する	選択できる種類・個数	慣れ親しんでいる	興味・関心をもっている物	扱いやすい工夫しやすい

表2 環境構成の視点(空間・場所・時間)

空間・場所・時間							
空間・場所						時間	
1	2	3	4	5	6	1	2
遊び場の安全性	慣れ親しんでいる	いつでも自分から遊びに誘えることができる	自由に選択できる	遊びの動線	周りから遊びが見える	思う存分遊べる時間の確保	繰り返し試せる

表3 環境構成の視点(人的環境)

人的環境												
教師										友達		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1	2
信頼関係	遊びの誘い方	援助の仕方	応答	顔差し	気付け	見守り	遊びを促せる	ヒヤヒヤ感などの提供	自己への方向	互いの関わり	信頼関係	友だちのかかわり

幼児の思考力の芽生えの八つの姿と、表1、表2、表3の環境構成の視点を関連付けること

で、適切な援助ができると考え、最終頁に示す資料1のように、「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を作成した。その際、「思考力の芽生えの姿」をより詳細に見取っていくために、予想される幼児の姿を示す欄を設け、文献等を参考にして具体的な姿の例を示した。また、各姿において重要だと予想される環境構成の視点の欄に色付けをして、示すこととした。

これを基に環境構成を行うことで、適切な援助を行うことができ、幼児の思考力の芽生えの姿を育むことができると考える。

幼児の遊びは、一日のうちに様々に変わるため、一つの遊びに焦点を当て、幼児の思考力の芽生えの姿に迫ることとした。

2 研究仮説の設定及び検証の視点と方法

(1) 研究仮説

段ボール遊びにおいて、幼児の思考力の芽生えの姿と環境構成の視点を明らかにし、「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を基に環境構成を行えば、幼児の思考力の芽生えを育むことができるだろう。

(2) 検証の視点とその方法

検証の視点と方法については表4に示す。

表4 検証の視点と方法

	検証の視点	検証の方法
1	段ボール遊びにおいて、幼児の思考力の芽生えを育むことができたか。	ビデオ分析により、幼児の遊びの様子から思考力の芽生えの八つの姿を見取り、分析する。
2	「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を基に環境を構成することは、幼児の思考力の芽生えを育むために有効だったか。	「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」の視点と、思考力の芽生えの八つの姿の関連性を「チェックリスト」に書き込み、分析する。

表5 幼児の思考力の芽生えを育む環境構成の視点と留意点

環境	番号	環境構成の視点	留意点
	1	安全な物	<ul style="list-style-type: none"> 安全な素材や用具を選定する。 初めて使う素材や用具は、使い方を知らせる。 遊びの状況に応じて必要なものは片付ける。
	2	分かりやすく分類し配置する	<ul style="list-style-type: none"> 素材や用具に表示を付け、どこにあるか分かるよう配置する。 自分で出し入れできるように見えやすい場所に配置する。

3 検証保育の計画と実施

(1) 対象

幼稚園5歳児 23名

(2) 期間

平成29年11月13日～11月17日

(3) 指導方法の工夫及び分析と考察の方法

ア 実態把握

5歳児23名の思考力の芽生えの姿について実態把握を行ったところ、ほとんどの幼児は、経験のある遊びや見たことがある遊びに対して自分たちで繰り返し、遊びを展開していくことができている。しかし、自分たちで、新たに考えたり、工夫したりする幼児は5名程度であった。多くの幼児は、初めての遊びに対して興味はもつものの遊び始めるのに時間がかかったり、できないとすぐに諦めて、他の遊びを始めたりする傾向があった。そこで、研究の焦点を当てる遊びとして、幼児一人一人が自分なりのイメージをもち、考えたり、工夫したりしながら試行錯誤して遊ぶ楽しさを味わい、できた満足感を味わうことができるような遊びである「段ボール遊び」を選んだ。段ボールは、様々な大きさがあり、切ったり貼ったりしやすいなど、幼児が扱いやすく作りたいものをイメージしやすい素材である。また、所属園の幼児が今までに経験したことがあり、親しみのある素材として、適していると考えた。

イ 環境構成の構想

実態把握を踏まえ、「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を基に、段ボール遊びの環境を構想する。なお、環境構成の視点と留意点については、表5に示す。

物的環境	素材・用具	3	選べる種類・個数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児自ら考え選べるように、素材用具の種類・個数を用意する。 ・ 遊び状況（遊びのめ、遊びの種類など）・種類の多さからイメージが湧きにくい等に応じて数種類の調整をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベットボトルの蓋 ・ 竹ひご 等（用具） 	
		4	慣れ親しんでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児安心して遊び取り組めるように、慣れ親しんでいる素材用具を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ セロテープ ・ ガムテープ 	
		5	興味・関心をもっているもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児興味関心をもち、やってみようと思えるような見本を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボンド 	
		6	扱やすくて工夫しやすい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 容易に扱えるように、扱やすくて、使いこなせる素材用具を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両面テープ ・ はさみ ・ 段ボールカッター 等 	
空間・場所・時間	空間・場所	1	遊び場の安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの遊びとの距離などが分かるように、遊び場の空間を確保する。 	（場所） 遊戯室	
		2	慣れ親しんでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児安心して活動できるように、日頃から慣れ親しんでいる場所で行う。 		
		3	いつでも自分から遊び始めることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児自ら、遊びのめや終りを決めることができる。出入りが自由な遊び空間であること。 		
		4	自由に選べる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児のイメージが実現できるように、遊び場の空間を指定しない。 		
		5	遊びの動線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊びの工夫や思いを実現できるようにスペースを確保する。 ・ 幼児の遊びの動きを考慮し、動きが制限されない場所にする。 		
		6	周りから遊びが見える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児互いに刺激し合ったり、真似し合ったりできるように、遊んでいる様子が周りから見やすいように遊び場の配置を考える。 ・ 遊びの様子に応じて、遊びを見やすいように背景の再構成をする。 ・ 作展示コーナーなどを設け、遊びの様子を伝える場を用意する。 		
	時間	1	思う存分遊ぶ時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児遊びの思う存分組める十分な時間を設定する。 ・ 幼児は、片付けの時間を事前に知らせ、時刻の目安をもって遊ぶようにする。 		
		2	繰り返し試せる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し試して遊ぶことができる。時間切れなどを許す。 		
	人的環境	教師	1	信頼関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が自分を出し安心して遊ぶように、日頃から幼児との信頼関係を築く。 	
			2	遊びの関わり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児と一緒に遊んで自分も楽しむ中で、自分で考える楽しさや面白さを知らせる。 	
3			幼児の思いを受け入れ、共感	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が興味もったり、気付いたり発見したりしたこと等の思いを受け入れ共感することで、幼児の活動の意欲を高める。 		
4			応答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びのイメージを広げられるように幼児と一緒に考えたり、寄り添ったりする等、幼児の思いやぶらさきに応答する。 ・ 失敗したり、できなかったり等、様々な思いに寄り添い、安心して活動に取り組めるようにする。 		
5			励まし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の「やってみよう」の思いを実現できるように、励まし言葉掛をする。 		
6			気付けさせ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が遊びに興味をもてるように、見本や素材等があることを気付けさせたり、援助をししたりする。 		
7			見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が自分で考え、解決できるように直ぐに答えを伝えるのではなく、幼児の思いに寄り添い見守る。 		
8			遊び方を知らせる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に遊びながら遊び方を知らせる。 ・ 幼児の思いが実現できるように幼児と一緒に素材用具を知らせたり、気付けさせたりする。 		
9			ヒントやアイデアなどの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びのイメージが実現できるように遊びのヒントやアイデアを知らせる。 		
10			自言へのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分で考える」「考えると分かった」の経験ができたり、自信につながったりするような言葉掛を行う。 ・ 幼児が自信をもって活動できるように、思考している幼児の姿を認める言葉掛を行う。 		
11			子ども同士をつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が仲間づくり、一緒に遊んだり、幼児の思いを代弁したりしながら、幼児同士の思いをつなげる。 		
友達	1	信頼関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して遊ぶことができる仲の良い友達近くにいる。 			
	2	友達とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに刺激し合える友達近くにいる。 ・ 作品の作り方を教え合ったり、認め合ったりする友達がいる。 ・ 出来上がった作品を認め合ったり、喜んだりする友達がいる。 			

ウ 環境構成

幼児の実態や、思考力の芽生えの姿に応じ環境の構成を行う。

エ 分析

幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を基に、環境構成と幼児の思考

力の芽生えの八つの姿との関連性について分析を行う。

オ 改善

幼児の実態から援助の改善を見だし、イ、ウ、エ、オを保育期間（5日間）繰り返し実施し、幼児の思考力の芽生えの姿の変容を探る。

4 保育実践の分析と考察

(1) 段ボール遊びにおいて、幼児の思考力の芽生えを育むことができたか。

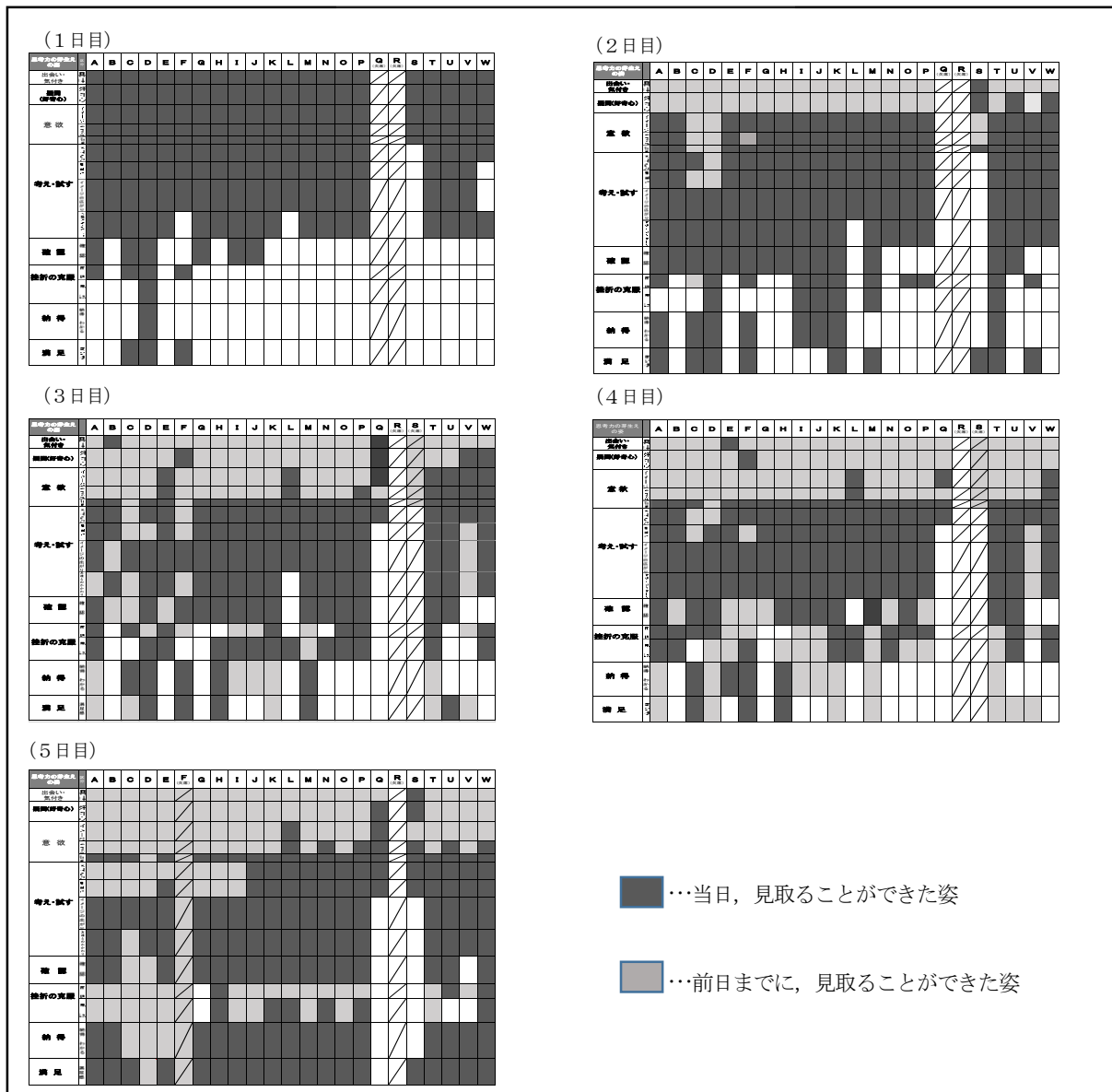
資料2に示すように、5日間の検証保育にお

いて、ほぼ全員の幼児に思考力の芽生えの姿が見られた。

また、幼児の思考力の芽生えの姿は、日ごとに八つの姿の表れ方に違いが見られた。段ボール遊びの初日には、**出会い・気付き** **疑問・好奇心** **意欲** の姿が全員に見られた。また、遊びが進むにつれ、**考え・試す** **確認** **挫折の克服** **納得** **満足** の姿が多く見られるようになった。

幼児の思考力の芽生えの姿は、八つの姿を行き来しており、思考力の芽生えの八つの姿が相互に関連し合っていることがうかがえた。

資料2 思考力の芽生えの姿 5日間の変容



考察

遊びの日数の経過とともに、幼児の思考力の芽生えの姿は変化していくことが明らかになった。同じ「段ボール遊び」であっても、毎日同じ環境では、思考力の芽生えを育むことはできないため、教師は幼児の姿を適切に見取り、状況に応じて適切に環境構成を行う必要がある。そのため、教師は、保育の際、幼児一人一人の思考力の芽生えの姿を具体的にイメージし、あらゆる姿を想定しておくことが重要である。

(2) 「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を基に環境を構成することは、幼児の思考力の芽生えを育むために有効だったか。

環境構成と幼児の思考力の芽生えの八つの姿の関連性について、幼児の段ボール遊びの様子をビデオ記録から見取り、資料3に示すように、幼児の遊びの場面を書き出し、行動の順に番号をつけて整理した。資料3に書き出した幼児の行動が、幼児の思考力の芽生えの八つの姿のどの部分を示しているかを見取り、7頁図1のように、「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」の環境構成と関連のある視点の欄に行動番号を書き込み、分析と考察を行った。このようにして、2名の幼児を抽出し、詳しく分析することとした。D児は日頃から、自分で考えたり、工夫したりして遊ぶことが少ない幼児である。しかし、検証保育において、物的環境によって、思いを実現するために試行錯誤する等の、思考力の芽生えの姿が見られた。F児は日頃から、様々な遊びに興味をもち積極的に関わっていく幼児である。検証保育において、人的環境(教師)により、思考力の芽生えの姿につながった幼児である。

幼児の思考力の芽生えの姿を7頁図1のように整理していくと、幼児の思考力の芽生えを育む環境構成において、環境の視点の「物的環境」では「安全な物」が、「空間・場所・時間」では「遊びの場の安全性」が、「人的環境」では「教師との信頼関係」が、全ての遊びの場面

において、常に関連があることが共通して見られた。

このことから、この三つの視点においては大きく関連性を示す場合を除いては、「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」への記入は省略することとした。

資料3 幼児の遊びの様子

検証保育 D児	D児 家→トンネル	
	教師	友達
1日目		
1 見本の段ボールの周りを歩く。[出:物2 場2 時1]		
2 「段ボールで作りたい」と言う。[出:人1・2・3・4]	2 段ボールを用意してあることを伝える。	
3 段ボール置き場から、段ボール①を持ってきた。[考:物2・3・5・6 場4 人7/友2]	3 友達の様子を見ながら段ボール①を開こうとする様子を見守る。	3 段ボール置き場から段ボールを持って来る。
4 段ボール①を開き、箱にしている友達を見る。真似ようと何度をチャレンジする。[意:人7/友2]		4 段ボールを開く。
5 蓋の部分は開いたが、箱の形にならない。[考:物2・3 場1・2・3・4 人7]		
6 段ボール②(小)を持って来る。箱にすることができた。[考:物2 人3/友2]		
7 牛乳パックを持って来る。[考:物2・3]		
8 段ボール①を何度も触り、開こうとする。[意:物5 時1 人7]		
9 段ボール①を斜めにし、段ボール②で支える。[考:時1・2 人7]		

<D児について>

1日目の思考力の芽生えの姿は7頁図1に示すとおりである。教師が見本として作った段ボールのトンネルに興味をもち、自ら素材や用

思考力の芽生えの姿	育てほしい姿	区分	物的環境						空間・場所・時間						人的環境												
			素材・用具						空間・場所			時間			教師												
			1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1	2
出会い・気付き	○ 興味・関心をもつ。	興味																									
疑問(好奇心)	○ 好奇心をもってかかわろうとする。	好奇心																									
意欲	○ 自分なりのイメージをもち、進んで進ぼうとする。	イメージ																									
考え・試す	○ イメージを実現させるために試行錯誤する。 ○ 素材の材質や、形、大きさなどの違いに気付く。	試行																									
		イメージの広がり		3-29	3-29	2-3・8-15・17-18・19-20・22-27-28	2-3・8-18・19-20・22-27-28	2-3・8-17・18-19-20・22-27-28						22	22	2-3・8-18-19-22-27	2-3・8-18-19-22-27		4	14			17-18-19-22	23-24-29	5	24	
確認	○ 素材や用具の性質に気付く。 ○ 友達で作ったものや、見本と比べながら、自分なりのイメージを実現しようとする。	確認				1			1-12-16						16	16				12							
挫折の克服	○ できないことや、思いの違いがあっても、諦めずに何とかしようとする。	挫折克服				21		21							21	21							11				
納得	○ 素材や用具の性質に合う使い方ができる。 ○ 自分なりのイメージに合っていることを納得する。 ○ 分からなかったことや、できなかったことを解決する。	納得わかる					9-10-13	9-10	9-10										6-13								
満足	○ 満足感、達成感を味わう。 ○ 今までの経験を生かしたり、新たな考えをもち、次の挑戦しようとする。	満足感				28		28							28	28				28			28	28	28	28	28

図2 D児の思考力の芽生えの姿(2日目)

思考力の芽生えの姿	育てほしい姿	区分	物的環境						空間・場所・時間						人的環境												
			素材・用具						空間・場所			時間			教師												
			1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1	2
出会い・気付き	○ 興味・関心をもつ。	興味																									
疑問(好奇心)	○ 好奇心をもってかかわろうとする。	好奇心																									
意欲	○ 自分なりのイメージをもち、進んで進ぼうとする。	イメージ																									
考え・試す	○ イメージを実現させるために試行錯誤する。 ○ 素材の材質や、形、大きさなどの違いに気付く。	試行																									
		イメージの広がり		4	4				4	4	2					4	4	4	4	4	4				4		4
確認	○ 素材や用具の性質に気付く。 ○ 友達で作ったものや、見本と比べながら、自分なりのイメージを実現しようとする。	確認													3	2	2										
挫折の克服	○ できないことや、思いの違いがあっても、諦めずに何とかしようとする。	挫折克服														11	11							12			
納得	○ 素材や用具の性質に合う使い方ができる。 ○ 自分なりのイメージに合っていることを納得する。 ○ 分からなかったことや、できなかったことを解決する。	納得わかる																	5	5	5	5			5	9	5-9
満足	○ 満足感、達成感を味わう。 ○ 今までの経験を生かしたり、新たな考えをもち、次の挑戦しようとする。	満足感																	6-7-8-9-10	6-7-8-9-10	6-7-8-9-10	6-7-8-10			6-7-8-9-10-12		

図3 D児の思考力の芽生えの姿(4日目)

〈F児について〉

1日目の思考力の芽生えの姿は図4に示すとおりである。段ボールに関する物語の読み聞かせや見本の段ボールのトンネルをきっかけに、段ボール遊びに興味をもち、仲の良い友達と一緒に、共通の目的をもって基地を作り始めた。大きな段ボールを開き、組み立てることを楽しんでた。その後、空き箱や空き容器等、様々な素材を手に取り、段ボールに組み合わせたり、貼り合わせたりするうちにイメージが広がり、基地作りがロケット作りが変わっていった。友達に自分の思いを伝えたり、相談したりしながら、ロケットを自分たちなりに完成させた。

3日目の思考力の芽生えの姿は10頁図5に示すとおりである。前日までに素材や用具の扱い方を経験していることもあり、段ボールのロケットに、他の素材を貼り合わせるためにはど

の接着剤が良いかを考えながら遊び、製作を楽しむ姿が見られた。概ね、自分のイメージする遊びができ、一旦満足感を得たが、その後、遊びは発展せず、友達の遊びに転々と移っていった。

4日目の思考力の芽生えの姿は10頁図6に示すとおりである。子どもたちだけでは、ロケット作りのイメージが広がりにくい様子が見られたため、教師が遊び仲間として関わり、F児の思いに共感したり、新しいアイデアやヒントを伝えたりした。F児は、教師からの言葉掛けや周りの友達の遊びの様子を見たり、相談したりしながら、さらに、ロケットのイメージを広げて遊んだ。また、遊びながら、段ボールカッターやガムテープ、ボンド等の扱い方が分かるようになると、イメージがさらに広がり、試行錯誤しながら自分のイメージするロケットを完成させ、満足感を得ていた様子であった。

思考力の芽生えの姿	育てほしい姿	物的環境												空間・場所・時間												人的環境											
		素材・用具						場所						時間						教師																	
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2										
		安全な物	分かりやすい種類	遊玩できる種類	壊れ難い	興味・関心をもちやすい	思いやりや工夫しやすい	遊び場の安全	遊べない	遊べる	いつでも自分から遊びたい	自由に選べる	遊びの動線	周りが見える	思いやりや関心の確保	繰り返しの試せる	遊べる	遊びへの関わり方	結果の思いやり	応答	励まし	気付け	見守り	遊び方を知らせ	ヒントやアイデアなどの提供	自信へのつながり	子ども同士をつなぐ	友達のかかわり									
出会い・気付き	○ 興味・関心をもち。	1-3-4	3			1-3		1-3-4	1-3-4	4						1-3-4	4											4	4								
疑問(好奇心)	○ 好奇心をもってかかわろうとする。	6	5-6	5-6-27	27	5-6-27	27			5		6-20-21	5-20-21	5-6		5	5												2-17-20-21-27								
意欲	○ 自分なりのイメージをもち、進んで遊ぼうとする。			15	15									8	8	8-16	8-16	8-16											10								
考え・試す	○ イメージを実現させるために試行錯誤する。 ○ 素材の材質や、形、大きさなどの違いに気付く。	25	25-26	25-26	25-26	18-25	25					11	11	11	11	11																					
		13-22-23-28-29-30-31	13-22-23-28-29-30-31	22-23-28-29-30-31	22-23-28-29-30-31	22-23-28-29-30-31	22-23-28-29-30-31	32	32			31	31	13-22-30-31	13-22-30-31			37	37	37									12-13-28-29-30	12-13-28-29-30-31							
		14-34-35	14-34-35	34-35-26	34	35-36				34	34	34	14-34	14-34	37	37	37							37	37	37		14-34	14-34								
確認	○ 素材や用具の性質に気付く ○ 友達のものや、見本と比べながら、自分なりのイメージを実現しようとする。																																				
挫折の克服	○ できないことや、思いの違いがあっても、諦めずに何とかしようとする。		18	18	18										19	19	19	19	19						19	19											
納得	○ 素材や用具の性質に合う方ができる。 ○ 自分なりのイメージに合っていることを納得する。 ○ 分からなかったことや、できなかったことを解決する。																																				
満足	○ 満足感、達成感を味わう。 ○ 今までの経験を生かしたり、新たな考えをもち、次の挑戦しようとする。																24	24	24	24							24										

図4 F児の思考力の芽生えの姿(1日目)

思考力の芽生えの姿	育てほしい姿	物的環境						空間・場所・時間						人的環境												
		素材・用具						空間・場所						教師												
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
出会い・気付き	○ 興味・関心をもつ。	興味																								
疑問(好奇心)	○ 好奇心をもってかわらうとする。	好奇心																							2	
意欲	○ 自分なりのイメージをもち、進んで選ぼうとする。	イメージ																								
考え・試す	○ イメージを表現させるために試行錯誤する。 ○ 素材の材質や、形、大きさなどの違いに気付く。	素材選び 組合わせ イメージの広がり	4	4	4・6・7	4・6・7	4・6・7		4・5	4・5	4・5	4・5		3・4・5	3・4・5		6・7	6・7・12・13		12・13			5・6・7	5・6・7	5・6	5・6
確認	○ 素材や用具の性質に気付く。 ○ 友達のものや、見本と比べながら、自分なりのイメージを実現しようとする。	確認														11		11							11	
挫折の克服	○ できないことや、思いの違いがあっても、諦めずに何とかしようとする。	挫折克服																								
納得	○ 素材や用具の性質に合う使い方ができる。 ○ 自分なりのイメージに合っていることを納得する。 ○ 分からなかったことや、できなかったことを解決する。	納得わかる			8・9		8・9										8	8	8		8		8			
満足	○ 満足感、達成感を味わう。 ○ 今までの経験を生かしたり、新たな考えをもち、次の挑戦しようとする。	満足感												1			10								10	1・10

図5 F児の思考力の芽生えの姿(3日目)

思考力の芽生えの姿	育てほしい姿	物的環境						空間・場所・時間						人的環境													
		素材・用具						空間・場所						教師													
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
出会い・気付き	○ 興味・関心をもつ。	興味																									
疑問(好奇心)	○ 好奇心をもってかわらうとする。	好奇心																							2		
意欲	○ 自分なりのイメージをもち、進んで選ぼうとする。	イメージ																									
考え・試す	○ イメージを表現させるために試行錯誤する。 ○ 素材の材質や、形、大きさなどの違いに気付く。	素材選び 組合わせ イメージの広がり	8・9	8・9	8・9	8・9	8・9							9	8・9		8・9	8・9	8・9				8・9				
確認	○ 素材や用具の性質に気付く。 ○ 友達のものや、見本と比べながら、自分なりのイメージを実現しようとする。	確認																									
挫折の克服	○ できないことや、思いの違いがあっても、諦めずに何とかしようとする。	挫折克服																	14-15		15						
納得	○ 素材や用具の性質に合う使い方ができる。 ○ 自分なりのイメージに合っていることを納得する。 ○ 分からなかったことや、できなかったことを解決する。	納得わかる																							18	18	
満足	○ 満足感、達成感を味わう。 ○ 今までの経験を生かしたり、新たな考えをもち、次の挑戦しようとする。	満足感	29	29	11・27-29	27	11・27-29							30-31 32-33	30-31 32-33	27-30 31-32	27	27-28 32-33	27-28 32-33	27-28 32-33				11-19 27-28 30-31 32-33	11	11-19 34	11-19 34

図6 F児の思考力の芽生えの姿(4日目)

図3～7から、思考力の芽生えの八つの姿の中でも、特に「**考え・試す**」の姿を示す際に、環境構成との関連が高いことが分かった。日を重ね、遊びが深まるとともにじっくりと長い時間取り組むため、動きが減り、行動番号も減っていた。また、遊び始めの段階では、見本や様々な素材・用具があること、慣れ親しんでいるものがあること等、「物的環境」からの影響が大きく、「**考え・試す**」以降の姿では、「時間」や「人的環境」の影響が大きいことが分かった。

考察

「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成チェックリスト」の環境構成の視点のうち、「安全な物」、「遊びの場の安全性」、「教師との信頼関係」は、幼児が遊ぶ際、常に必要であり、環境を構成する上で重要であると言える。

幼児は段ボール遊びの一日目では、多くの素材や用具があることで、自分のイメージしたものを作ることに満足感を得ていた。日数が進むにつれ、他の素材を貼り合わせたり、組み合わせたりするうちに、よりイメージが広がり、考えたり、工夫したりする楽しさを味わい、自分の思いが達成された満足感に変わっていった。そして、素材や用具の性質に気付き、性質に合う使い方を考える姿が見られるようになってきた。このことから、物的環境において、幼児が安心して遊びに取り掛かりやすくするために、慣れ親しんだ素材や用具があることが有効であり、考えたり、工夫したりするためには、素材や用具の多様さや種類の豊富さが有効であったと言える。段階的に素材や用具等の環境を変えていくことが、新たな思考につながるものと考えられる。

空間・場所・時間において、「**考え・試す**」以降の姿では、繰り返し試したり、思う存分遊んだりする時間の確保が有効であった。幼児の思考力の芽生えを育むためには、遊びが継続的に行われるように十分に時間を確保することが重要であると考えられる。

D児は、段ボールを立たせようとしたがなか

なか立たず、4日目に友達からアドバイスを受けるまでは試行錯誤を繰り返していた。F児は、自分のイメージをもって思いどおりに遊び、一旦、満足したものの新たなイメージの実現に向け、繰り返し遊んだ。教師は見守ったり、共感したりしながら、幼児の思いを受け止め、どんなイメージをもっているのか、どのようにしたいと思っているのか意図を酌み取りながら、幼児が自ら考えたり、工夫したり、ヒントを得ようとしていたりしている姿を支えた。このことから人的環境である教師は、思考力の芽生えの姿を見取り、与えるだけではなく、見守り、待つことが重要であることが示唆された。

これらのことから、幼児の思考力の芽生えとは、八つの思考力の芽生えの姿が相互に関連し合うことで幼児の思考力の芽生えは育まると考えられる。教師は指導計画を立てる際、幼児の思考力の芽生えの姿を見取り、実態に合わせた環境を構成するために「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」が有効であったと言える。

「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」の幼児の思考力の芽生えの八つの各姿において、特に重要だと予想する環境構成の視点の欄に色付けをして示したところ、幼児の思考力の芽生えの姿に概ね沿っていたが、幼児の発達段階や実態によっては、重要となる環境構成の視点に違いが見られる部分もあった。概ね5歳児の幼児に育ててほしい姿を想定して「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を作成したが、全ての幼児の思考力の芽生えを育むためには、あらゆる幼児の実態を考慮し、一人一人の具体的なイメージをもって、環境を構成していく必要がある。

V 研究のまとめ

1 成果

(1) 幼児の思考力の芽生えを育むことについて

て

「幼児が思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を基に、幼児に育ってほしい姿を具体的にイメージして環境を構成し、保育を行うことで、環境の再構成や援助に役立てることができた。また、環境構成の中でも特に「物的環境」の中では「選択できる種類・個数」が、「場所・空間・時間」の中では「十分な時間」が、「人的環境」の中では「教師の遊びへの関わり方」「友達との関わり」が重要性を示すことが分かった。

(2) 教師の適切な援助について

「物的環境」「空間・場所・時間」の二つの環境は、幼児の思考力の芽生えの姿や年齢に応じて事前に設定するものである。しかし、「人的環境」である教師が幼児の姿を見取り、適切な援助を行うことや周りの幼児からの刺激を受けること等は、幼児の遊びのその場ですぐに対応する環境であることから、幼児の姿を見取り、適切に援助を行うことが求められる。「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」を活用することで、幼児一人一人の思考力の芽生えの姿を適切に見取ることができ、育てたい姿をイメージしながら、見守ったり、一緒に遊びながら遊び方を知らせたりするなど、幼児の実態に応じた適切な援助を行うことができた。

2 課題

「幼児が思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」に「幼児の予想される姿」を示したが、示したものの他にも、様々な思考力の芽生えの姿を見取ることができた。このことは、幼児の思考力の芽生えの姿は一つ一つが切り離されたものではなく、幼児の思考力の芽生えの八つの姿が相互に関連し合い、重なり合っているものであると考えられる。目に見えない思考力の芽生えを見取るためには、より確かなチェックリストとなるように、再考する必要がある。

また、個別の関わりが必要な幼児について思考力の芽生えの八つの姿が十分に見られなかったため、個の対応も含め、全ての幼児に対応できる「幼児の思考力の芽生えを育む環境構成のチェックリスト」に改善していきたい。

そして、教師間で環境を構成する際や環境と幼児の思考力の芽生えの姿を見取る際に使えるものとなるよう、どの教師が見ても分かる「環境構成のチェックリスト」に改善し、幼児の全ての遊びにおいて活用し、幼児の思考力の芽生えを育てていくことに役立てたい。

引用文献

- 1) 文部科学省 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』平成28年、79頁
- 2) 文部科学省『幼稚園教育要領』平成29年、5頁
- 3) 国立教育政策研究所教育課程研究センター『幼児期から児童期への教育』ひかりのくに株式会社、平成17年、110頁
- 4) 前掲書 3) 21頁
- 5) 文部科学省『幼稚園教育要領』平成20年、1頁

参考文献

- ① 榎沢良彦・入江礼子『保育内容 環境』建帛社、2013年
- ② 岡上直子『あしたの保育が楽しくなる実践事例集 ワクワク!ドキドキ!が生まれる環境構成 3・4・5歳児の主体的・対話的で深い学び』ひかりのくに株式会社、2017年
- ③ 国立教育政策研究所教育課程研究センター『幼児期から児童期への教育』ひかりのくに株式会社、平成17年
- ④ 田尻由美子・無籐隆『保育内容 子どもと環境 - 基本と実践事例 - 』同文書院、2012年
- ⑤ 文部科学省『幼稚園教育要領』平成20年
- ⑥ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、平成20年
- ⑦ 文部科学省『幼稚園教育要領』平成29